

室内環境の異常素早く通知

空調機器の製造や販売を手がけるシー・エイチ・シー・システム（C・H・C・システム、東京都町田市）は、小規模事業所や飲食店などを対象に、室内環境をコンサルテーションするサービスを8月に始める。専用機器を設置して室内の二酸化炭素（CO₂）の濃度などを測り、異常があれば顧客に知らせる。大規模な内装工事をする前に顧客自らが室内環境を整えられるか確認することができる。

室内に専用センサーを設置する。センサーが感知した室内温度や湿度、CO₂濃度などのデータをクラウド上に集める。高温になるなど事前に設定した値を上回ったり下回ったりすると、メールでその旨を顧客に知らせる。顧客は窓を開けて換気したり、空調の温度設定を変えたりする対策をとることができる。環境が改善されない場合は原因と具体的な改善策をメールで顧客に知らせる。例えば「空調設備の経年劣化やフィルターが詰まっている可能性があるので掃除を勧めます」といった具合だ。

さらに室内環境のデータをクラウドに蓄積し、人工知能（AI）を活用して分析する。同社のエンジニアはAIの分析結果や顧客へのヒアリングの結果などを踏まえ、室内環境の改善案や、性能が低下した空調や換気設備などの取り換え時期などを提案する。商談が成立すれば修理や工事をする。

顧客は室外からでもパソコンやスマートフォンを通じて空調機器などを操作できる。例えば、温度や湿度など事前に定めた目標値になるまで換気設備や空気清浄機を動かすことも可能だ。

新型コロナウイルスの感染拡大で室内環境を整えることに注目が集まっていることから需要が見込めると判断している。

価格はクラウドサービスの利用を含め、1年目は年間5万2800円から、2年目以降は2万6400円から。資本提携先でIoT機器開発のスタートアップcyna ps（シナプス、東京・世田谷）と共同開発をした。データ解析はC・H・C・システムが手掛ける。まずは中小企業や介護施設、飲食店などに1年間で1000台程度の販売を目指す。同社の渋谷俊彦社長は「少しでも異常を察知したら、なるべく早く顧客に解決策を提示する。夏や冬など空調設備を頻繁に使う時期に急に止まってしまつ事態を未然に防げる」と話す。

今後はサービスをきっかけに機器メーカーや設備設計の事業者などと連携し「顧客が自分自身で最適な機器の選定や運用方法を理解できるように新しいサービスにつなげていきたい」（渋谷社長）としている。（燧芽実）



渋谷社長は「異常を検知したら早く顧客に解決策を提示する」と話す

室内環境コンサルティングの主な流れ

